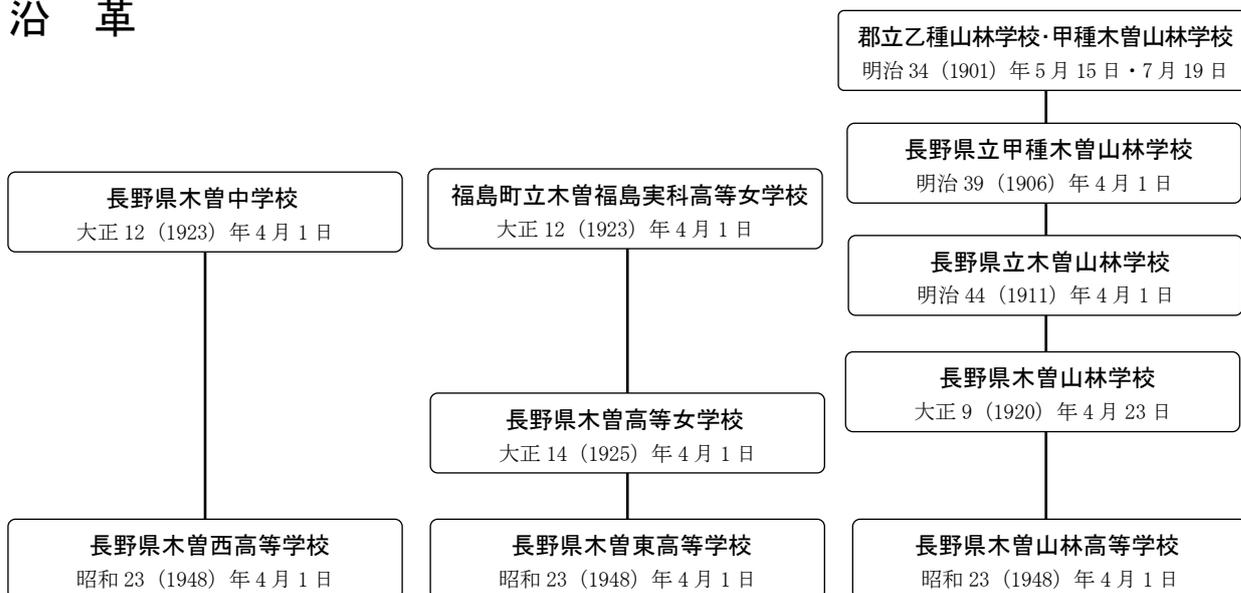


沿革



創立と同時に林業教育の目的に合わせて、木曾特産のヒノキの若葉を輪郭として、その中に「山林」の二字を含むようなデザインで徽章を作成。



- (1) 左右は木曾を象徴する御岳山、駒ヶ岳を表わし、木曾高校の前身である木曾東、木曾西両高校が手をつないだ形として表わされている。
- (2) 左上の星形は木曾（木曾高校）の「木」の文字を表し、同時に真理と正義を愛する心を象徴している。
- (3) 上下（中央）は木曾の中心を流れる木曾川を表し、また、勉学を象徴するペン先の形である。
- (4) 白…雪、純粋さを意味する。
- (5) 青…木曾川、希望を意味する。
- (6) 銀…輝きを表わす。

デザイン 木曾高校第2回卒業生 武居奈美
補作 旧木曾東高校教諭 平林義男



- (1) 勉学に励み、自然を愛する精神を「気高くそびえる美しい山（青峰）」と「木曾川の清流」で表現している。
- (2) 木曾の美しい自然と地域に生まれ、「未来にむかひ成長する生徒の姿」を表現している。

デザイン 校章作成委員会



ロゴマーク

長野県木曾高等学校

本校は、前身である木曾中学校（のちの長野県木曾西高等学校）が大正12年（1923年）に開校し、また、もう一つの前身である木曾高等女学校（のちの長野県木曾東高等学校）が木曾福島実科高等女学校として同年開校したことをもって創立とする。そして、創立以来50有余年の歴史をもつ長野県木曾西高等学校と長野県木曾東高等学校が昭和57年（1982年）に統合し、長野県木曾高等学校として全日制普通科・衛生看護科・定時制普通科を設置し発足した。

平成10年（1998年）に全日制に理数科を設置し、普通科・衛生看護科との3学科となった。衛生看護科は平成16年（2004年）3月をもって閉科となった。

平成19年（2007年）、木曾山林高等学校との統合により、木曾青峰高等学校が設置され、本校は募集停止となった。平成22年（2010年）3月の定時制普通科の卒業をもって閉校となった。

長野県木曾山林高等学校

本校は、明治33年（1900年）、実業学校令に基づき中等学校としては、我が国初の林業を専門とする学校として認可され、翌34年（1901年）開校した。生徒は、県内はもとより全国各地から集まり、卒業生は官界、林業界の主として管理的部門、技術的部門等で活躍している。戦後、学制改革により木材工芸科を加え、林業及び工芸の専門の教育機関として斯界と地域社会に大きな貢献をなしてきた。

昭和42年（1967年）には、林業科に経営、林産、土木の3コースを設け、昭和48年（1973年）に工芸科はインテリア科と改称し、時代の要請に応じてきた。その後、林業科では、サイエンス・ビジネスの2コース、インテリア科は、プロダクト・デザインの2コースとし、充実と発展を図ってきた。

平成19年（2007年）、木曾高等学校との統合により、木曾青峰高等学校が設置され、本校は募集停止となった。平成21年（2009年）3月の卒業をもって閉校となった。

長野県木曾青峰高等学校

県教委「高等学校改革プラン」実施計画の木曾高等学校と木曾山林高等学校の統合案に、平成18年9月県議会が同意、12月の高等学校設置条例を一部改正する条例により、平成19年（2007年）4月に伝統ある両校が統合され、木曾青峰高等学校が設置された。全日制普通科・森林環境科・インテリア科・理数科、定時制普通科を有し、これまで培ってきた教育実績をさらに発展させていく。